

秘

# 海軍公報

第五〇六九號

昭和二十年七月十五日(日)  
海軍大臣官房

## ○令 達

達第一六一號

接收獨潛水艦六隻ニ左ノ通命名ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣 臣

伊號第五百一潛水艦

伊號第五百二潛水艦

伊號第五百三潛水艦

伊號第五百四潛水艦

伊號第五百五潛水艦

伊號第五百六潛水艦

達第一六二號

當分ノ開海軍工作學校規則中ノ沼津海軍工作學校擔任事項ハ當

該規定ニ拘ハラズ横須賀海軍工作學校ニ於テ之ヲ處理スルモノ

トス

此ノ場合當分ノ開沼津海軍工作學校ヨリ横須賀海軍工作學校ニ

移管セル學生、練習生、講習員等ノ採用及教育ニ關シテハ沼津

海軍工作學校ニ關スルノ諸規定ヲ準用ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣 臣

内令兵第三三號

假稱特S射出機ヲ兵器ニ採用シ四式一號射出機一〇型ト呼稱ス

昭和二十年七月十四日

海軍大臣 臣

官房需第七九號

昭和十八年官房需第一八八號及昭和十九年官房需第三一三號中

「第七十九條ノ七」ヲ「第七十九條ノ二」ニ改ム

昭和二十年七月十三日

海軍大臣 臣

(參照) 海軍會計法規類集二卷三三〇ノ九頁、三三〇ノ三八頁

官房經第四一〇號

昭和十九年官房經第五三四號中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十三日

海軍大臣 臣

第一號及第四號中「別表」ヲ「別表第一」ニ改ム

五ノ二 隊員傷痕ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ別表第二ニ依リ

弔慰金又ハ見舞金ヲ支給スルコトヲ得

六ノ二 前各號ノ規定ハ軍事特別措置法施行令第二十七條ノ規

定ニ該當スル業務従事者又ハ協力團體ノ所屬員ニ付之ヲ準用

ス

秘海軍公報 第五〇六九號 昭和二十年七月十五日

七六三

2112

別表ヲ別表第一トス  
別表第二トシテ別表ヲ加フ

附則

本令ハ昭和二十年五月五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(別表添)

(參照) 昭和十九年官房經第五三四號ハ國民勤勞報國隊員ノ給與ニ關スル件ナリ(海軍會計法規類集二卷二〇八ノ二)

○ 邊 際

軍務一機密第六〇一號

昭和二十年七月十五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

用紙ノ節約並ニ備蓄ニ關スル件申進

首題ニ關シテハ既ニ各廳ニ於テ銳意實行中ノコトト思料セラレ  
ルモ本年度ニ於ケル紙ノ需給情況ハ一段ト逼迫ノ度ヲ加ヘ特ニ  
第二・四半期以降ニ於ケル極度ノ減産ハ必至ト豫想セラレ候ニ  
付テハ昭和十九年五月二十日附軍務一機密第四二五號用紙節約  
ニ關スル件申進ノ要領ニ基キ之方實行ヲ更ニ強化シ各廳獨自ノ  
創意工夫ヲ凝シ徹底的消費規正ヲ加ヘ以テ一定量ノ備蓄ヲ確保  
シ置キ補給杜絶又ハ空襲被害等ノ場合ニ對處シ萬遺漏ナキヲ期  
セラレ度

教育機密第二九六號

昭和二十年七月十二日

關係所轄長殿

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

海軍豫備員タル通信關係應召准士官及下士官  
ノ各部配屬中ニ於ケル教育指導等ニ關スル件  
申進

今般海軍豫備練習生教程履修ノ無線電信講習所卒業者タル首題  
准士官及下士官ヲ充員召集ノ上各部ニ配員セシメラルコトト  
相成候處右ハ軍事教育トシテハ横須賀海軍通信學校ニ於テ約三  
月半ノ教育ヲ受ケタルノミニシテ從來ヨリ約二月半ノ短縮教程  
タリシ次第モアリ然カモ將來召集解除後ハ直チニ船舶無線通信  
士ノ職ニ就クベキ者ナルニ付テハ各部配屬中ノ教育指導等ニ關  
シ左記配慮ノ上然ルベク取計相成度

記

- 一 一般ニ若年ニシテ實務ノ經驗ナキニ付當初ハ概ネ准士官ニ  
在リテハ一等下士官、上等兵曹ニ在リテハ二等下士官ノ實務  
ヲ體驗セシメ逐次上級階級ノ配置ノ業務ニ就カシムル如クシ  
概ネ四月ノ修練ニヨリ兵曹長又ハ上等下士官トシテノ職能ヲ  
體驗セシムル如ク指導スルコト
- 二 海軍軍事一般ニ關スル識能尙不充分ニ付各部配屬中極力實  
地實物ニ就キ之方教育ヲ行フコト
- 三 召集解除後ノ業務配置ニ鑑ミ主トシテ左ノ如ク對船舶通信  
又ハ護衛關係ノ通信配置ニ就カシムルコト
- (イ) 保有通信技術ノ低下ヲ防止スルタメ事務的配置ニ充ツル

コトナク實務配置ニ就カシムルコト之方爲准士官ト雖モ無  
線交信當直ニ立タシムルコト  
(ロ) 在勤武官府等ニ配セラレタル者ハ一般船舶ノ通信術指導  
ニ當ラシムルハ差支ナキモ前項同様交信當直ニ立タシムル  
カ又ハ送受信技術訓練ヲ勵行スルコト

經監一第八號ノ一二

昭和二十年六月三十日

海軍省 經理局長

各海軍經理部長  
關係各廳長

前渡資金計算證明等取扱非常措置要領ノ件申進  
皇土危急ノ非常事態ニ對處シ事務處理ノ決戰的簡素化ヲ圖ラン  
方爲首題ノ件左記ノ通定メラレ候ニ付テハ之方實施ニ當リテハ  
特ニ適切ナル指導監督ニ留意シ會計經理ノ適正ナル運営ニ萬遺  
憾ナキヲ期セラレ度

追テ本要領ハ之方實施ノ趣旨ニ鑑ミ事務整理ノ進捗狀況ニ應  
ジ現ニ未整理ノ分ヨリ直ニ週及適用セシムル様取計相成度  
記

前渡資金計算證明等取扱非常措置要領

第一 前渡資金計算證明等取扱ノ非常措置ニ關シテハ本要領ノ  
定ムル所ニ依ル

第二 海軍省經理局長又ハ海軍經理部長(特設海軍經理部長ヲ  
含ム以下同ジ)ハ會計檢査院法第十六條ノ規定ニ依リ委託檢  
査ニ付セラレタル前渡資金ノ出納計算ニ付テハ帳簿ヲ以テ之

ヲ證明セシメ又ハ前渡資金受拂報告書、前渡資金現況報告  
書、艦隊經費現況報告書等適宜ノ報告書ヲ以テ出納計算書ニ  
代ヘシムルコトヲ得

第三 前號以外ノ前渡資金ノ出納計算ニ付テハ出納官吏ハ一月  
乃至三月毎ニ出納計算書ヲ調製シテ檢査ヲ爲ス官吏及海軍省

經理局長ヲ經テ之ヲ會計檢査院ニ提出スルモノトス  
前項ノ出納計算書ニ添附提出スベキ證憑書類ハ當該廳長保證

ヲ爲シ之方提出ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス但シ海軍省經  
理局、海軍經理部(特設海軍經理部ヲ含ム以下同ジ)及海軍  
施設本部補給部ニ置カレタル資金前渡官吏ノ出納ニ係ルモノ  
ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四 海軍省經理局、海軍經理部及海軍施設本部補給部ニ置カ  
レタル資金前渡官吏戰況其ノ他ノ事由ニ依リ證憑書類ヲ提出

シ難キ場合ニ於テハ當該廳長ノ證明書ヲ提出スルモノトス  
第五 第二號ノ規定ニ依リ前渡資金ノ出納計算ヲ帳簿ヲ以テ證

明セシムルトキ及前二號ノ規定ニ依リ保證書又ハ證明書ヲ以  
テ證憑書類ノ提出ニ代フルトキハ出納官吏ハ證憑書類正本ノ  
ミ調製シ之ヲ保管スルモノトス

第六 第三號ノ規定ニ依リ廳長ノ保證書ハ出納計算書ノ末尾ニ  
「上記ノ金額ノ出納ノ正確ナルコトハ本職之ヲ保證ス年月日」

ト記入シ捺印スルモノトス

第四號ノ規定ニ依リ廳長ノ證明書ハ出納計算書ノ末尾ニ「證  
憑書類ノ提出困難ナルコト及上記ノ金額ノ出納ノ正確ナルコ

秘海軍公報 第五〇六九號 昭和二十年七月十五日

七六五

2114

トハ本職之ヲ證明ス年月日」ト記入シ捺印スルモノトス

第七 戦時海軍計算證明規程第三十八條第二項ノ規定ニ依ル支拂證據内譯書ノ調製提出ハ當分ノ間之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ依給、旅費其ノ他ノ給與ノ支給狀況ヲ明ニシタル帳簿又ハ書類(様式適宜)ヲ作製備付クルコトヲ要ス

第八 支拂計算證明ニ付事務簡捷上又ハ用紙不足等ノ爲資金前渡官吏計算證明證書調理様式ニ依リ難キ場合ニ於テハ適宜ノ様式又ハ用紙ニ依ルコトヲ得ルモノトス

第九 前二號ノ規定ハ支出官ノ支出證明ニ付之ヲ準用スルモノトス

第四號乃至第六號ノ規定ハ當該海軍經理部長又ハ海軍省經理局長ノ承認ヲ得テ支出證據書類ニ付之ヲ準用スルコトヲ得ルモノトス

海軍經理部長前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ速ニ海軍省經理局長ニ其ノ旨報告スルモノトス

第十一 戦時海軍計算證明規程第六條、第九條、第二十三條第一項但書、第二十七條第二項第三號及第四十六條ノ規定ニ依リ海軍省經理局長ノ承認ヲ要スル事項ハ緊急已ムヲ得ザル場合ニ限り海軍經理部長適宜處理シ速ニ其ノ旨報告スルモノトス

第十一 前各號ノ外戦時海軍計算證明取扱要領ノ定ムル所ニ依ル

○ 雜 款

○事務開始		事務所名	設置場所	事務開始日	記
第十四陸上輸送隊	名古屋市港區熱田前新田字中ノ五番地(舊國五〇一工場内)	岡田縣兒島郡福田村字松江	六月五日	轉勤者赴任先岡山縣兒島郡福田村字松江本線倉敷驛下車徒歩約二十分	
第二海軍燃料廠名古屋分工場	同	同	七月一日	本廠ニ對スル書類中分工場ニ關係アリタルモノハ寫一電送アリタシ	
横須賀聯合特別陸戰隊司令部同直轄部隊	横須賀海兵團内	同	同	郵便物發送先横須賀郵便局	
第十一特別陸戰隊	同	同	同	同	
第十二特別陸戰隊	同	同	同	同	
第十三特別陸戰隊	海軍對洋學校内	同	七月一日	横須賀局氣付横須賀海軍工	
第十四特別陸戰隊	武山海兵團内	同	同	横須賀郵便局留置武山海兵團内	
第十五特別陸戰隊	横須賀海軍砲術學校内	同	同	横須賀郵便局氣付横須賀海軍砲術學校内	
第十六特別陸戰隊	同	同	同	同	

(官房經第四一〇號別表第二)

(昭和二十年七月十五日祕海軍公報)

考備	區分金額	業務上			業務外		
		死	傷	疾	死亡ノ原因勤務ニ關聯アルトキ	死亡ノ原因勤務ニ關聯ナキトキ	傷
一 本表ニ於テ傷痕トハ恩給法施行令第二十四條、第二十四條ノ二又ハ第三十一條ニ該當スル場合ヲ謂フ	計	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇
	廳長	二〇〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	三〇〇〇〇
	所屬長官	三〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇
	海軍大臣	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二五〇〇〇	五〇〇〇〇		

秘

海軍公報 第五〇七〇號

昭和二十年七月十六日(月) 海軍大臣官房

○令 達

内令第五五六號ノ二

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年六月十八日

海軍大臣

大湊防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第百八十五號(大)」ノ次ニ「第百九十三號(横)、第百九十四號(横)」ヲ、「第百三十三號(大)」ノ次ニ「第百六號(横)、第百九號(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第五五六號ノ三

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年六月十八日

海軍大臣

大湊防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第二號明治丸(横)」ノ次ニ「第五千代丸(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第五七三號  
右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル  
昭和二十年六月二十六日

敷設艇 粟 島

海軍大臣

内令第五八五號  
海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月一日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中第七二三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第七二四海軍航空隊	神ノ池航空基地(茨城縣鹿島郡)
第七二五海軍航空隊	横須賀軍港

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第五八七號  
特設監視艇隊編制申左ノ通改定セラル

昭和二十年七月一日

秘海軍公報 第五〇七〇號 昭和二十年七月十六日

七六七

2117

海軍大臣  
 第一監視艇隊ノ項中「第一哨戒特務艇、第二哨戒特務艇、  
 第七十三號哨戒特務艇、」ヲ削ル  
 第二監視艇隊ノ項中「第六十五號哨戒特務艇、第七十九號  
 哨戒特務艇、第九十一號哨戒特務艇、」ヲ削ル  
 第三監視艇隊ノ項中「第九十號哨戒特務艇、」ヲ削ル  
 第四監視艇隊ノ項中「第三十四號哨戒特務艇、第六十三號  
 哨戒特務艇、第六十四號哨戒特務艇、第七十四號哨戒特務  
 艇、」ヲ削ル

(内含提要卷一、一五一頁参照)

内令第五八八號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス  
 昭和二十年七月一日

海軍大臣

吳防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄ニ「第七十九號(佐)」ヲ加フ  
 徳山防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄ニ「第九十一號(佐)」ヲ加フ  
 舞鶴防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第三十五號(舞)」ノ前ニ「第  
 一號(横)、第二號(横)」ヲ加フ  
 大湊防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第七十二號(大)」ノ前ニ「第  
 五十八號(大)、第六十五號(吳)、第六十九號(吳)」ヲ、「第七十  
 二號(大)」ノ次ニ「第七十三號(大)、第七十七號(大)、第七十  
 八號(吳)」ヲ加フ

新潟港灣警備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第八十四號(舞)」ノ次ニ  
 「第九十號(舞)」ヲ加ヘ同項ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

伏木港灣 警備隊	第六十三號(佐)				
敦賀港灣 警備隊	第六十四號(佐)				
大阪港灣 警備隊	第三十四號(吳)				

第五十一警備隊ノ項ヲ削ル

(内含提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第五八九號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク  
 昭和二十年七月一日

海軍大臣

内令第五九二號

波號第二百十八潛水艦  
 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

海軍大臣

内令第五九三號

自波號第二百二十四潛水艦

至波號第二百二十七潛水艦  
右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

波號第二百十八潛水艦  
波號第二百十九潛水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

昭和二十年七月一日

海軍大臣

内令第五九四號

第三百三號海防艇

第三百九號海防艇

第三百十三號海防艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

第三百三十一號海防艇

第三百三十七號海防艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

第四百四十四號海防艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

第一號海防艇

第二號海防艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和二十年七月一日

海軍大臣

官房教機密第三三九號

昭和二十年七月一日

海軍大臣

海軍總司令部長官  
各鎮守府警備府司令長官  
海軍經理學校校長  
海軍兵學校校長

對米戰闘(上陸作戦)巡回講話施行ノ件訓令

首題ノ件左記ニ依リ實施スベシ

記

講話項目	講話期日及場所	聽講範圍	講話官
一 米軍上陸作戰ノ様式	七月七日 佐世保	各陸戰隊、航空隊關係士官	軍令部
二 陸上戰闘ノ教訓	十二日 鹿屋	各隊(總)主	實松大佐
三 國土決戰ニ於ケル陸上防備對策	十四日 吳	要職員	海軍總隊
	十六日 大分	講話地附近所	浦部中佐
	十八日 江田島		
	十九日 大阪		
	二十日 舞鶴		
	二十三日 高知		
	二十七日 横須賀		
	大更津(復ケ浦、大湊)實施期日ハ追テ定ム		

備考  
一 關係各部ハ講話官ノ行動其ノ他ニ關シ爲シ得ル限り便宜ヲ與フルモノトス  
二 講習期日ハ情況ニ依リ變更スルコトアリ



官房艦機密第一八七九號

大東亞戰爭中鎮守府、警備府司令長官ハ裝備工事ヲ要セザル兵器ノ一定期間供給請求ニ對シ兵器經理規程ノ規定ニ拘ラズ部下海軍軍需部長ヲシテ一ヶ月以内ニ限り供給セシムルコトヲ得但シ供給期間内ト雖モ所要ニ應ジ還納受セシムルモノトス  
昭和二十年七月十四日

海軍大臣

官房軍第三五一號

當分ノ開海軍對潛學校ノ施設ハ海軍水雷學校ノ施設ニ準ジ之ヲ使用シ部内限リ海軍水雷學校久里濱分校ト稱スルコトヲ得  
海軍水雷學校長ハ同校久里濱分校ニ配セラレタル首席兵科將校ヲシテ校長監督ノ下ニ同分校ニ於ケル教育ノ實施ヲ管理セシメ又所轄長ニ準ジ同分校ニ在校スル者ノ身上其ノ他同分校ニ於ケル一般事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得  
昭和二十年七月十五日

海軍大臣

官房軍第三五二號

當分ノ開沼津海軍工作學校ノ施設ハ橫須賀海軍工作學校ノ施設ニ準ジ之ヲ使用シ部内限リ橫須賀海軍工作學校沼津分校ト稱スルコトヲ得  
橫須賀海軍工作學校長ハ同校沼津分校ニ配セラレタル首席兵科將校ヲシテ所轄長ニ準ジ同分校ニ在校スル者ノ身上其ノ他同分

校ニ於ケル一般事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

通牒

海人四機密第四三二號

昭和二十年七月十五日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

昭和二十年度戰時召集延期者ノ取扱ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通陸軍次官ヨリ通牒有之候條了知相成度

(別紙)

陸密第四六六九號

昭和二十年七月七日

陸軍次官

海軍次官殿

昭和二十年度戰時召集延期者ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和二十年度戰時召集延期者ト決定シアル者(昭和二十年十月盡日迄ニ變更(充足)ノ處置ニ依リ新ニ戰時召集延期者ト決定スベキ者ヲ含ム)ハ昭和二十年十月盡日迄依然其ノ適用ヲ受クル如ク處理スルコトニ定メラレタルニ付承知相成度

追テ各業務種別ノ總動員上ノ緊要度ノ移動或ハ戰災ノ爲當然  
戰時召集延期ノ適用ヲ解除スベキ會社、工場、事業場等アル  
ベキヲ以テ自今更ニ配當人員數内ニ於ケル變更(充足)ノ事  
務處理ヲ活潑ニシ以テ戰時召集延期ノ主旨ニ合致セシムル如  
ク配慮相成度尙昭和二十一年度ノ戰時召集延期ニ關シテハ七  
月中旬正式ニ示達セラルル豫定ナルニ付申添フ

航本機密第五一六六號

昭和二十年七月十四日

海軍航空本部  
海軍省 經理局長

關係各廳長殿

自動車用部品保管轉換ニ關スル件通牒

昭和二十年兵備二機密第二〇四號ニ依リ海軍工廠資金會計及海  
軍作業會計所屬ノ各種自動車用部品ノ賣拂及有價保管轉換ヲ受  
クル場合之ニ要スル經費ハ臨時軍事費臨時軍事費造船兵及修  
理費造修費(空)支辨ノコトニ取計相成度

航本兵無線機密第六二五號

昭和二十年七月十四日

海軍航空本部 總務部長

各聯合航空艦隊司令部  
第十聯合航空艦隊司令部  
第十一聯合航空艦隊司令部  
第十二聯合航空艦隊司令部  
第十三聯合航空艦隊司令部  
第三澤、大津、中支各航空隊司令部  
第一海軍航空廠總務部長

秘海軍公報 第五〇七〇號 昭和二十年七月十六日

航空機用無線兵器處理並ニ其ノ他ニ關スル件  
照會

一 第十航空艦隊司令部航空兵器定數簿通信長主管(航空)中  
ヨリ航空無線兵器ノ部削除ニ伴ヒ各聯合航空隊司令部及各聯  
合航空隊、第十二、第十三、第五十三航空艦隊麾下各航空隊  
並ニ三澤、大津、中支各航空隊(舊練習聯合航空艦隊麾下ノ  
モノノミ)現有航空機用無線兵器(以下單ニ兵器ト稱ス)ハ  
左記ニ依リ處理(書類上ノ手續ノミ)ノコトニ定メラレ候條  
可然了知相成度

(イ) 第十航空艦隊司令部(以下單ニ司令部ト稱ス)ニ供給中  
(舊練習聯合航空艦隊司令部ニ供給ノモノヲ含ム)ノ兵器ニ  
シテ司令部ヨリ各聯合航空隊司令部及各航空隊ニ供用中  
ノモノハ司令部ヨリ第一海軍航空廠ニ之ヲ還納ス

(ロ) 各聯合航空隊司令部及各航空隊ハ司令部ヨリ供用中ノ現  
有兵器(一型又ハ改一、改二等ヲ明記ス)ヲ司令部ニ返納  
シタルコトトシ同兵器ニ對スル請求票ヲ「實用機」及「練  
習機、講堂等」ニ裝備ノ二種ニ分子作製ノ上司令部經由  
第一海軍航空廠宛送付ス

(ハ) 第一海軍航空廠ハ前二號ニ依リ還納票及請求票ノ品名數  
量ヲ調査ノ上實用機ニ裝備ノモノハ供給其ノ他ハ定數外ト  
シテ供給ス

(ニ) 第一海軍航空廠ハ航空兵器經理規程第十八條及第四十條  
ニ依リ航空本部長ニ通報スルノ外昭和十八年十一月一日航  
本第八四六九號ニ依ル書類ヲ第二海軍航空廠補給部整理係

<p>宛送付ス</p> <p>二 各聯合航空隊司令部及各航空隊航空兵器定數簿通信長主管 (航空) 中航空機用無線兵器ノ定數ハ當分設定セラレズ</p> <p>三 新製實用機ニ對スル無線兵器ハ昭和十九年七月官房空機密第十四號ノ二六一艦船部隊特設艦船部隊基準兵器簿ニ依リ空輸機兵裝施行場所ニ於テ裝備ス</p> <p>四 實用機ニ對スル無線兵器(備品)ハ常用ノミニシテ補用ハ供給セラレズ特ニ要スル場合ハ定數外供給トシテ訓令セララル</p>	
<p>○隊名變更</p> <p>當隊ハ七月一日左ノ通隊名呼稱變更セリ</p> <p>新隊名 第一沼田部隊</p> <p>舊隊名 第一重松部隊</p> <p>(第三千百十四設營隊)</p>	
<p>○事務開始</p> <p>事務所名 設置場所 事務開始日 記</p>	
<p>第五百二十一設營隊</p> <p>熊本縣球摩郡本上村</p> <p>六月一日</p> <p>旅行順路 湯前線一武驛下車徒歩約二十分肥後縣人吉驛下車徒歩約一時間 郵便物送先 熊本縣人吉局氣付海軍警備隊</p>	<p>第五百二十八設營隊</p> <p>宮崎縣延岡市土呂岡 土呂岡土呂岡 民學校内</p> <p>六月五日</p>
<p>○旅行順路</p> <p>第五百十四設營隊 福岡縣京都郡今元村今元國民學校内 六月五日 旅行順路 四日登線行橋驛下車徒歩約四分五分 隊福岡縣行橋局氣付香川部</p> <p>第五百三十九設營隊 舞鶴市公文名舞鶴市公文名第一設營隊内 七月一日 郵便物送先 舞鶴市公文名舞鶴海軍警備隊第一設營隊内原部隊</p> <p>第五百三十七設營隊 田原市海軍中隊(案原部隊)内 七月三日</p>	
<p>○大楠海軍機關學校</p> <p>大楠海軍機關學校大竹分校 宇部部 分 教 場</p> <p>東ヨリ山陽線小郡ニテ宇部本線乗換ヘ琴芝下車陸路二、五軒 西ヨリ山陽線宇部ニテ宇部本線乗換ヘ琴芝下車陸路二、五軒</p> <p>○正誤</p> <p>七月十日附秘海軍公報令達欄「内令第五八六號、第五八七號」ハ「第五九〇號、第五九一號」ノ誤</p> <p>○本日軍極秘海軍公報第一六三號(乙配付)發行セリ</p> <p>配付先 各司司令部、各海軍人事部、川棚突擊隊、海軍水雷學校</p> <p>○本日海軍公報發行セズ</p>	



# 海軍公報 第五〇七一號

昭和二十年七月十七日(火)  
海軍大臣官房

## ○告示

海軍省告示第一號ノ一五  
第十航空艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

## ○令 達

官房經第四一五號

昭和十七年官房第四一五八號中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十四日

海軍大臣

「金百圓以内」ヲ「金千圓以内」ニ改ム

(參照)「官房第四一五八號」ハ官有物拾得者等ニ謝金贈與ニ關スル件  
ナリ(會計法規集一卷二六六頁)

官房經機密第四一三號

當分ノ閉鎖時軍事費特別會計ヨリ海軍火藥廠又ハ海軍燃料廠ニ  
對シ支拂フベキ生産品ノ代價(前金拂ヲ含ム)ハ海軍會計規程  
第三十九條ノ規定ニ拘ラズ海軍火藥廠長又ハ海軍燃料廠長ヲシ  
テ之ヲ支出セシムルコトヲ得

昭和二十年七月十六日

海軍大臣

## ○通 牒

教育機密第二九七號

昭和二十年七月十三日

海軍省教育局長

關係各廳長殿

各術科研究機關等存置ニ關スル件中進  
今般教育緊急措置ニ依リ術科學校教育機關ハ縮少又ハ閉鎖セラ  
レタル處各術科學校研究部ハ概ネ從來通之ヲ存置シ且閉鎖學校  
研究指導機關ハ左記ニ依リ當該術科研究實驗指導及調査等ヲ續  
行スルコトニ定メラレ候條了知相成度

### 記

#### 一 各術科研究部

閉鎖學校	同上研究部移行場所	研究部長
海軍對潛學校	海軍水雷學校	海軍水雷學校教頭
機須賀海軍通信學校	第一聯合通信隊司令部(東京)	第一聯合通信隊司令官又ハ其ノ指定者
助府海軍通信學校		

秘海軍公報 第五〇七一號 昭和二十年七月十七日

七七三

2123

海軍航海學校	見取、信號、應急ハ船舶修成部但シ當分ノ開右ノ關係事務ヲ取扱ハ舊海軍航海學校内ニ於テ之ヲ行フ	船舶修成部長又ハ其ノ指定者
海軍氣象學校	海軍氣象部 (東京)	海軍氣象部長又ハ其ノ指定者
備考	文書ノ宛先ハ左例ニ依ル (例) 神奈川縣横須賀市泊浦 舊海軍航海學校内 信號術研究部	

二 體育指導機關  
教育局直接所掌

教育機密第三〇一號

昭和二十年七月十六日

海軍省 教育局長  
海軍省 人事局長

各鎮守府 各警備府 參謀長殿

學生練習生講習員等ノ教育廳變更ニ關スル件  
中進

首題ノ件自今戰災等已ムヲ得ザル場合ニ在リテハ各鎮(警)内ニ於テ適宜教育廳ヲ變更ノ上成ルベク速ニ關係各部ニ報告(通報)ノコトニ定メラレ候

追テ右ニ伴フ教育教員等ノ人事異動ハ後日教育廳變更ノ日ニ適リ發令セラルルモノト了知相成度

經給第一一五號

昭和二十年七月十六日

關係各廳長殿

海軍省 經理局長

戰地ニ對スル旅費ノ概算拂、精算、追給等ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年經給第二二號中左記ノ通改正致候

記

「今般官房經第八八號ヲ以テ首題ノ件令達セラレ候處同號」ヲ「戰時軍人軍屬旅費特別」ニ改ム  
赴任(轉勤)旅行ノ部(二)ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ臨時軍事費特別會計歳出ノ返納金ニ在リテハ定額ニ戻入スルモノトス

同(三)ホ中「歳入ニ納付」ノ下ニ「又ハ定額ニ戻入」ヲ、「收入金」ノ下ニ「又ハ戻入金」ヲ加フ  
(參照) 海軍機密會計法規類集二三六頁

○ 雜 款

○ 監督官事務所移轉

一 中國海軍監督官事務所岡山出張所ハ事故ニヨリ岡山市國富三二七番地少林寺内ニ移轉セリ

二 書 類

六月二十八日迄ニ到着セシ書類ハ全部焼失ニツキ左ノ通送付(貸與、供用)方至急取計ヲ得度  
(イ) 岡山出張所宛文書ニシテ未決ノモノ

○廳令、部隊移轉		○事務開始	
廳令、部隊名	移轉先	移轉月日	記
第五百十六設營	廣島縣高田郡根野村上根一三九二番地根野國民學校内	六月八日	旅行順路 廣島市紙屋町一丁目野間乘合自動車ノ便アリ(所乘時間約二時間) 廣島縣高田郡上根郵便局 廣島縣高田郡上根二番電付上根二番
第一〇二三海軍 船空隊	福岡縣精養軒博多航空基地内	六月九日	旅行順路 西戸崎線ノ中道驛下車 郵便物送先 福岡縣精養軒博多航空基地 福岡縣精養軒博多航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地
○事務所撤去		○事務開始	
第一〇二三海軍 船空隊	佐世保鎮守府艦隊部	六月三十日	六月三十日解散 電話(清水)一三七九番 郵便物送先、二五番 海軍航空隊三保町清水務所
第一〇二三海軍 船空隊	廣島縣高田郡根野村上根一三九二番地根野國民學校内	六月八日	廣島縣高田郡上根郵便局 廣島縣高田郡上根二番電付上根二番
第一〇二三海軍 船空隊	福岡縣精養軒博多航空基地内	六月九日	旅行順路 西戸崎線ノ中道驛下車 郵便物送先 福岡縣精養軒博多航空基地 福岡縣精養軒博多航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地
第一〇二三海軍 船空隊	佐世保鎮守府艦隊部	六月三十日	六月三十日解散 電話(清水)一三七九番 郵便物送先、二五番 海軍航空隊三保町清水務所
第一〇二三海軍 船空隊	廣島縣高田郡根野村上根一三九二番地根野國民學校内	六月八日	廣島縣高田郡上根郵便局 廣島縣高田郡上根二番電付上根二番
第一〇二三海軍 船空隊	福岡縣精養軒博多航空基地内	六月九日	旅行順路 西戸崎線ノ中道驛下車 郵便物送先 福岡縣精養軒博多航空基地 福岡縣精養軒博多航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地 鹿屋市鹿屋航空基地
第一〇二三海軍 船空隊	佐世保鎮守府艦隊部	六月三十日	六月三十日解散 電話(清水)一三七九番 郵便物送先、二五番 海軍航空隊三保町清水務所

事 務 所 名	撤去月日	記 事
第八十七號海防艦艇裝員事務所	五月十九日	
第十三聯合航空隊殘務整理班	六月五日	
伊賀航空基地(假稱)設立準備事務所	六月三〇日	
波號第二百五潜水艦艇裝員事務所	七月三日	
波號第一百十一潜水艦艇裝員事務所	七月四日	
第九十五號海防艦艇裝員事務所	同	
驅逐艦八重櫻艇裝員事務所	七月六日	

○赴任轉動旅費ノ件  
當司令部へノ轉勤者ハ石川縣七尾驛迄前金拂ノコトニ取計ハレ度  
追テ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ七尾市ナリ  
(第五十一戰隊司令部)

○轉勤者赴任先  
自今當隊へノ轉勤者ハ北陸本線粟津下車北鐵加南線那谷寺驛下車(徒歩ニテ約十分)ノコトニ取計ハレ度  
(第五百三十二設營隊)

○本日海軍公報發行セス

七七六



# 海軍公報

第五〇七二號

海軍大臣官房

昭和二十年七月十八日(水)

○令 達

内令第五九六號

第九十五號海防艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

舞鶴鎮守府在籍

第九十五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年七月四日

海軍大臣

内令第五九七號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月五日

海軍大臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「三池、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一八ノ六頁参照)

内令第五九八號

昭和十七年内令第九〇〇號支那地方在勤海軍武官及南方地方在

勤海軍武官ノ在勤地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月五日

海軍大臣

第一號中「塘沽、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一八ノ九頁参照)

内令第五九九號

昭和二十年内令第二六八號(當分ノ開塘沽在勤海軍武官ハ主トシテ海上交通保護ノ事務ニ服スルノ件)ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年七月五日

海軍大臣

内令第六〇〇號

驅逐隊編制申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月五日

海軍大臣

第四十一驅逐隊ノ項中「涼月」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第六〇二號

特設掃海隊編制申左ノ通改正セラル

秘海軍公報 第五〇七二號 昭和二十年七月十八日

七七七

2127



<p>昭和二十年七月五日 海軍大臣 第三十五掃海隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷一、一五〇頁参照)</p>	<p>内令第六〇三號 佐世保鎮守府豫備驅逐艦 驅逐艦 涼 月 右第四豫備驅逐艦ト定ム 昭和二十年七月五日 海軍大臣</p>	<p>内令第六〇四號 昭和十八年内令二五六六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月五日 海軍大臣 佐世保防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第五十一播州丸(舞)」ヲ加フ 舞鶴防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「第二濟州丸(舞)、第二濟州丸(舞)、第六博多丸(舞)」ヲ加フ 第二十八根據地隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷四、八ノ二九頁参照)</p>
<p>内令第六〇五號 汽船 光隆丸 右特設敷設艦トシ吳鎮守府所管ト定メラル 昭和二十年七月五日 海軍大臣</p>	<p>内令第六〇六號 第二百二號海防艦 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 佐世保鎮守府在籍 第二百二號海防艦 右警備海防艦ト定メラル 昭和二十年七月七日 海軍大臣</p>	<p>内令第六〇七號 昭和十六年内令第一一三三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及分業事項ノ件申左ノ通改正ス 昭和二十年七月七日 海軍大臣 第十二海軍航空廠宮崎分工場 第十三海軍航空廠宮崎分工場 ニ改ム (内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)</p>

内令兵第三四號  
航海長主管兵器名稱中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十七日

海軍大臣

舊名稱	新名稱	記	事
九七式特眼鏡	九七式潛望鏡	型及改一或二等ノ種別ハ從來通	
水防眼鏡	五式潜防鏡	トス	

官房機密第四一四號

戰地用酒保物品取扱手續中第五條表備考四號俱書ヲ左ノ如ク改ム

但シ主計長ヲ置カザル艦船部隊其ノ他各部ニ在リテハ必要ニ應ジ所轄長ハ部下主計科准士官以上ニ、主計科准士官以上アラザル艦船基地ヲ離レテ行動スル場合ハ所轄長所管經理部長ト協議ノ上部下准士官以上ニ取扱主任ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合所屬長ハ其ノ旨關係各部ニ通知スルモノトス

昭和二十年七月十六日

海軍大臣

○週 誌

軍務一第一三九號

昭和二十年七月十六日

秘海軍公報 第五〇七二號 昭和二十年七月十八日

各領守府參謀長殿

海軍省軍務局長

法務科下士官ニ任用セラレタル者ノ普通進行章ノ資格期間通算ニ關スル件申進

法務科武官任用特例ニ依リ法務科下士官ニ任用セラレタル者ハ任用前ニ引續キタル錄事若ハ監獄監守長又ハ警査若ハ監獄看守トシテ勤務シタル期間ニ限リ普通進行章ノ資格期間ニ通算スベキ趣旨ナル處其ノ以前ニ於テ下士官、兵ノ勤務期間アルトキハ其ノ期間ヲモ新ニ任用セラレタル法務科下士官ノ勤務期間ニ通算スルコトヲ得ルコトニ定メラレ候條承知相成度

教育機密第三〇二號

昭和二十年七月十六日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

海軍總隊參謀長  
各領守府參謀長  
各警備府參謀長  
各艦隊參謀長  
關係各廳長 殿

海軍豫備員タル海軍少尉及同少尉候補生實務練習實施ニ關スル件申進

七月十五日其ノ教育ヲ終了シ任用(採用)ノ上配員セラレタル首題海軍少尉中將來海上勤務ヲ主トスル者及海軍少尉候補生ニ對スル實務練習ハ夫々其ノ實務練習規則ニ基キ左記ニ依リ實施セシメラル豫定ニ有之候條承知相成度

七七九

記

番號	出身學校等別	區分	員數	實務練習期間
一	川柳突撃隊	豫備學生	約三三	自 七月十五日 至 十月十五日
二	海軍氣象學校	豫備生徒	約一六	自昭和二十年七月十五日 至昭和二十二年一月十五日
三	豫備生徒	約一		
備考	狀況ニ依リ本實務練習期間中第一線部隊ニ配員セシメラルベ コトアリ			

(參照) (教育機密第二三五號及第二三六號申進(六月一日)秘海軍公報第五〇二八號)

○ 雜 款

○ 事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	記	事
第五十五魚雷訓練班	田浦海軍航空隊	六月二五日		
第四海軍燃料旅會計部(給與係、計算係、燃料係)	福岡縣糟屋郡須惠村大字須惠國民學校内	六月二六日	旅行順路 鹿兒島本線香椎換乘 新原驛下車徒歩約十分	
第七二五海軍航空隊	横須賀海軍航空隊内	七月一日		
第十三特別陸戰隊	横須賀海軍工作學校内	同	郵便物發送先 横須賀局氣付ウ七三〇	
海防艦室津整裝員事務所	横須賀市谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀造船所内	同		

第五千十六設營隊	横濱市戸塚區中區	同	
第五千二百十二設營隊	富崎縣南那珂郡地津町四千七番	同	電話 浦津 一〇二番
第三千二十三設營隊	横濱市戸塚區中和國民學校内	七月五日	郵便物發送先 横濱市戸塚局氣付海軍系原部隊内ウ七四三



# 海軍公報 第五〇七三號

昭和二十年七月十九日(木)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房軍機密第六八六號  
衛科指導部規程ニ依ル水雷、機雷、通信、電測及見張應急指導班ノ編制標準別表ノ通定ム  
昭和二十年七月十七日  
海軍大臣 臣

## (別表添)

(昭和二十年二月十六日、秘海軍公報參照)

官房軍機密第四一八號  
損害補償及慰籍内規中左ノ通改正ス  
昭和二十年七月十七日

海軍大臣 臣

第二條中「五千圓」ヲ「五萬圓」ニ改ム  
第三條中「千圓」ヲ「三千圓」ニ、「五百圓」ヲ「千五百圓」ニ、「百圓」ヲ「五百圓」ニ改ム

(參照) 海軍機密會計法規類集三〇三頁

## ○通 牒

海人一第九號ノ三一  
昭和二十年七月十六日

海軍省人事局

秘海軍公報 第五〇七三號 昭和二十年七月十九日

## 部内各廳御中

新任技術科士官ノ電報符ニ關スル件申進  
昭和十九年九月三十日採用海軍技術見習尉官(技術生徒及二年現役専門學校出身者)中本年五月一日附海軍技術少尉ニ任用セラレタル者ノ電報符ハ秘海軍辭令公報甲第一七九六號任官辭令ニ記載ノ番號ヲ付與セラレタルモノトス  
、追テ未任官者ニ對スル電報符左記ノ通付與セララル

氏名	電報符	氏名	電報符
西村 治人	七六七五	内山 一雄	七六八五
富樫 良夫	七六七六	柳 川 孝	七六八六
大草 一夫	七六七七	松岡 光夫	七六八七
太田 保善	七六七八	益田 達之助	七六八八
金澤 友一	七六七九	吉本 啓一	七六八九
高橋 毅	七六八〇	船 迫 弘	七六九〇
高木 信夫	七六八一	小 泉 篤	七六九一
田中 博昭	七六八二	小 泉 光夫	七六九二
辻村 勇夫	七六八三	小 崎 甲子郎	七六九三
村尾 孝明	七六八四	木 村 弘	七六九四

七八一

三浦 忠	〇〇	七六九五	岡部 保	〇〇	七七二四
杉山 正友	〇〇	七六九六	中山 保雄	〇〇	七七一五
杉田 孝	〇〇	七六九七	名張 隆政	〇〇	七七一六
伊藤 壽男	〇〇	七六九八	上野 俊雄	〇〇	七七一七
伊藤 輝一	〇〇	七六九九	八木 田政智	〇〇	七七一八
池田 恒雄	〇〇	七七〇〇	山中 金吉	〇〇	七七一九
石塚 富藏	〇〇	七七〇一	藪 岡 力	〇〇	七七二〇
西 一 男	〇〇	七七〇二	松 田 良一	〇〇	七七二一
西村 茂樹	〇〇	七七〇三	福原 中夫	〇〇	七七二二
細川 昇	〇〇	七七〇四	藤 森 經也	〇〇	七七二三
荻野 敏雄	〇〇	七七〇五	小坂 橋喜子男	〇〇	七七二四
荻原 三郎	〇〇	七七〇六	小 黑 仁	〇〇	七七二五
渡部 敏夫	〇〇	七七〇七	河 野 雄治	〇〇	七七二六
加藤 初之助	〇〇	七七〇八	相 澤 義一	〇〇	七七二七
加藤 廣司	〇〇	七七〇九	佐 藤 一夫	〇〇	七七二八
賀谷 輝徳	〇〇	七七一〇	佐 藤 正治	〇〇	七七二九
高島 周夫	〇〇	七七一一	品 田 進市	〇〇	七七三〇
瀧澤 榮輔	〇〇	七七一二	菅 井 正徳	〇〇	七七三一
武 澤 哲	〇〇	七七一三			

軍需衣第三四號ノ三

昭和二十年七月十八日

海軍省 人事局  
海軍省 軍需局

各海軍人事部、地方海軍人事部、御中

准士官以上正衣袴及禮衣袴等有償供出要領ノ件照會

首題ノ件ニ關シ軍需衣第三四號（五月十三日秘海軍公報）ヲ以テ通知セラレ居候處尙之方實施ニ關シ左記含置ノ上可然協力相成度

記

- 一 現役准士官以上等ニシテ勤務廳ニ取纏ムルコト困難ナルモノハ便宜最寄海軍軍需部又ハ地方海軍人事部ニ送付シ海軍人事部ニテハ之ヲ取纏メ海軍軍需部ニ轉送ノコト
- 二 海軍軍人遺家族ニシテ此ノ際本品ヲ供出希望ノモノハ在郷軍人ノモノニ準ジ有償ノコトトシ海軍軍需部又ハ地方海軍人事部ニ於テ受領シ海軍人事部ニテハ之ヲ海軍軍需部ニ轉送スルコト
- 三 在郷軍人會其ノ他ノ團體ニテ集荷セル供出品ニシテ檢送困難ト認メラルル場合ハ海軍軍需部又ハ地方海軍人事部ハ其ノ檢送方ニ關シ極力斡旋ヲ爲スコト
- 四 在郷軍人並ニ軍人遺家族ニシテ正裝、禮裝ノ外ニ不要軍服類ノ供出ヲ申出タルモノニ付テハ昭和十五年軍務機密第五三

號(別紙参照)ノ趣旨ニ依リ之ヲ寄贈受ノコト

(別紙)

昭和十五年一月二十七日軍務機密第五三號

(軍務局長ヨリ各人事部長宛)

現下物資逼迫ノ實情ニ鑑ミ在郷准士官以上又ハ服役終了ノ下士官兵等ニシテ既ニ不要トナリタル軍服類ノ寄贈ヲ申出タル向モ有之貴管下ニ於テ同様篤志有之候ハバ之ヲ受ケ海軍軍需品タル被服ニ利用又ハ再製致度意向ニ有之候條適當ナル方法ニ依リ當方ノ趣旨徹底方配慮ヲ得度但シ服役未了ノ下士官兵ハ召集、點呼等ニ際シ軍服ノ著用ヲ要スルニ付之方寄贈ヲ受ケザル様致度  
追テ寄贈品ニハ寄贈者ノ官階(元官職階)氏名及住所ヲ明記セル荷札ヲ附シ荷造運賃ハ軍需部負擔ノコトトシ差支無之候條在郷軍人會分會(海軍部)及私的海軍團體等ヲ利用スル等便宜ノ方法ニテ之ヲ取廻メ最寄海軍軍需部ニ送付ノコトニ取計ハレ度

經豫機密第五號ノ七

昭和二十年七月十六日

海軍省 經理局長

各鎮守府、警備府參謀長  
各海軍經理部長、同支部長  
海軍總隊、各艦隊參謀長  
同上護衛參謀長  
各特設海軍經理部長、同支部長  
制限豫算ノ中央統制一時停止ニ關スル件申進  
從來中央ニ於テ制限配付セル左記經費ハ當分ノ間之ヲ各鎮、各艦隊等ニ於ケル統制ニ一任シ所要經費ハ支拂豫算ノ請求

秘海軍公報 第五〇七三號

昭和二十年七月十九日

ニ依リ令示セラルルコトト相成候條左記留意ノ上苟モ經費ノ濫費ニ陥ラザル様可然取計相成度

記

一 經費科目

臨時軍事費 臨時軍事費 廳費

雜給及雜費

出張旅費(一般)

家屋其ノ他借料

舟車馬類借賃

演習費(一般)

艦營費

家屋其ノ他借料

舟車馬類借賃

檢定競技費(一般)

教育諸費

統制要領及配付基準

(イ) 統制要領

今回ノ改正ハ交通、通信ノ杜絶等ノ場合ヲ考慮スルト共ニ

事務ノ簡素化ヲ圖ル爲中央ヨリノ配付制限竝ニ中央ニ對ス

ル協議等ヲ省略スルコトヲ主眼トセルモノニ付各鎮、警

艦隊司令部及經理部等ニ於ケル統制ハ概ネ從來ノ例ニ依リ

可及的事務ノ簡素ヲ圖ルコト

(ロ) 關係各部ニ對スル配付ノ基準

(一) 廳費、一般出張旅費、家屋其ノ他借料及舟車馬類借賃

計數的ニ基準ヲ設タルコト困難ナルモ眞ニ作戦遂行上已

ムヲ得ザル經費ニ限定スルコトヲ目途トスルコト

(二) 一般演習費

七八三

2133

現狀ニ於テハ特殊ノ場合、特殊ノ部隊ニノミ必要ナルモノト認メラルルニ付原則トシテ所要ノ都度配付スルコトトシ共ノ基準ヲ左ノ通トスルコト

(三) 檢定競技費  
 本經費ハ昭和十七年一月二十二日內令第一二六號ニ依ル海軍檢定褒賞費及昭和十二年四月二日官房機密第一一四八號ニ依ル競技費以外ノ一般競技費ニシテ情況概ネ演習費ノ場合ト同様ト認メラルルモ特ニ事前ニ配付ヲ要スル場合ハ其ノ基準ヲ左ノ通トスルコト

三 通 報  
 每年九月及三月末現在ニ於ケル既往六月分ノ關係各部ニ對スル配付額ヲ左ノ様式ニ依リ翌月末日迄ニ通報スルコト

計	司令	所轄名	自		至	年	月	制	限	予	算	配	付	額	計
			年	年											
			總	費											
			旅	費											
			出	張											
			...	...											

○事務開始

○雜 款

事務所名	設置場所	事務開始日	記 事
朝鮮海軍航空隊 (金剛部隊)	東萊郡釜山海軍航空隊内	六月〇日	旅行願路 京釜線 浦驛下車
船用在勤海軍武官府	秋田縣南秋田郡 船川港町新濱町	六月二五日	旅行願路 東京方面 線與本線秋田驛下車船川港徒歩約五分 青森方面 同與本線追分驛下車以下
佐世保鎮守府南九州出張所	鹿兒島市吉野町 磯區九六八五	七月一日	上記方面ニ於ケル部内各隊並ニ部外官憲トノ連絡交渉ノ統制實施等ニ關スル事務關係ルコトトナリタリニ付 廢關係類ハ當所宛直送サレ
西宮海軍航空隊 殘務整理班	兵庫縣西宮市上ケ原大坂御船隊内	六月三日	六月三十日解散
人吉海軍航空隊 殘務整理班	熊本縣球磨郡本地上村人吉航空隊基地内	七月二〇日	七月十日解散

○本日海軍公報發行セズ  
 ○本日軍機秘海軍公報第一六四號 (甲配付) 發行セリ

(官房軍機密第六八六號別表)

(昭和二十年七月十九日祕海軍公報)

備考	見張、應急、衛			通 信 衛		電 測 衛		機 雷 衛		水 雷 衛			衛 科 別	區 分	人 員	記 事		
	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	班 附	班 員	指 導 班 長	人 員	記 事	
右指導班員(當分ノ間一部配員ノ外部下職員ヲ以テ之ニ充ツルモノトス)	兵曹	中少尉(水)、兵曹長	中少佐	兵曹	大中尉(水) 技術科尉官 中少尉(水)、兵曹長	中少佐	兵曹	大中尉(水) 技術科尉官 中少尉(水)、兵曹長	中少佐	兵曹	少佐、大尉 大中尉(水) 尉官、准士官	兵曹	少佐、大尉 大中尉(水) 尉官、准士官	兵曹	中少佐	中少佐	水雷主務參謀兼務	
	八	四	一	一〇	三	二	一	三	二	一	五	一	四	一	一	一		
	見張、應急 各四	見張、應急 各二		交信、兵器、暗號 各一	交信、兵器、暗號 各一	通信主務參謀兼務	電測兵	電測專修	電測專修	情報主務參謀兼務			機雷主務參謀兼務					





20.7.29

# 海軍公報 第五〇七四號

昭和二十年七月二十日(金)  
海軍大臣官房

## ○令 茲

内令第五八六號  
潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年七月一日

海軍大臣 臣

第十六潜水隊ノ項中「波號第百三」及「波號第百五」ヲ削ル  
第三十四潜水隊ノ項中「呂號第五十號」ノ下ニ「波號第百三」  
波號第百五」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第五九五號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年七月三日

海軍大臣 臣

第十二海防隊ノ項中「稻木」ノ下ニ「高根」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第六〇一號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年七月五日

海軍公報 第五〇七四號 昭和二十年七月二十日

第一海防隊ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

海軍大臣 臣

第二海防隊

屋代、保高、波太、干珠、第二號、第三十四號、第八十二號

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第六〇八號

特設船舶警戒部令中左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十日

海軍大臣 臣

別表中「室蘭」ノ下ニ「七尾」ヲ、「境」ノ上ニ「船川」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ二頁参照)

内令第六〇九號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣 臣

新	伏
瀨	木
船舶警戒部新瀨支部	船舶警戒部伏木支部

七八五

2136

船	船	船	船
川	湯	木	尾
支部	支部	支部	支部
伏	伏	伏	伏
七	七	七	七
尾	尾	尾	尾
部	部	部	部
七	七	七	七
尾	尾	尾	尾
部	部	部	部

(内令提要卷一、三八八七二ノ四頁参照)

ニ改ム

内令第六一〇號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武官ノ在勤地ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「伏木」ノ下ニ「七尾」ヲ加フ

(内令提要卷一、一八ノ六頁参照)

内令第六一一號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十日

海軍大臣

佐世保鎮守府ノ部中  
福岡海軍航空隊、第二出水海軍航空隊、入吉海軍航空隊、中良

海軍航空隊及鹿兒島海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第六一三號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十日

海軍大臣

「福岡海軍航空隊」  
「第二出水海軍航空隊」  
「入吉海軍航空隊」  
「鹿兒島海軍航空隊」  
「中良海軍航空隊」  
ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

内令第六一三號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

第一河和海軍航空隊等ノ部中「入吉海軍航空隊、第二出水海軍航空隊」及「中良海軍航空隊」ヲ、土浦海軍航空隊等ノ部中「福岡海軍航空隊」及「鹿兒島海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

内令第六一四號

昭和十七年内令第三〇六號海軍工廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及

分掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

山口縣宇部市ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

富山縣富山市 舞鶴海軍工廠 主トシテ艦船及船舶ノ修理ニ關スル事項

(内令提要卷一、三〇ノ四頁参照)

内令第六一五號

當分ノ間、大湊警備府ニ置クベキ補缺員タル特務士官及准士官ハ十五人以内トス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

官房軍第三五六號

昭和十九年官房軍第一一五八號(海軍兵學校分校呼稱等ノ件)中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十八日

海軍大臣

第一項中「針尾海兵團」ヲ「防府海軍通信學校」ニ、「針尾分校」ヲ「防府分校」ニ改ム

(諸例則卷一、五八〇頁参照)

官房經機密第四二〇號

當分ノ間昭和十七年官房機密第一一八八二號艦船部隊等ノ經費

等ノ取扱特例中第五條、第十二條、第十二條ノ二及第十四條ノ規定ニ依ル海軍大臣ヘノ報告ハ之ヲ省略スルコトヲ得

昭和二十年七月十九日

海軍大臣

(参照) 海軍機密會計法規類集二頁

官房人機密第四五八號

特修兵養成ニ關スル特例中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十八日

海軍大臣

第十三條第一項但書中「掌信號兵(見張專修ノ者ヲ除ク)、掌電信兵及」ヲ削ル

第十六條表ヲ左ノ如ク改ム

術科別	問題作製擔任區分
砲術、測的術	横須賀海軍砲術學校長
水雷術、機雷術、水測術	海軍水雷學校長
運用術、信號術	船舶警戒部長
氣象象術	海軍氣象部長
電信術、暗號術	第一聯合通信隊司令官
電測術	海軍電測學校長
兵器整備術、飛行機整備術	第二十聯合航空隊司令官

秘海軍公報 第五〇七四號 昭和二十年七月二十日

七八七

機關衛、内火衛、電機衛	大楠海軍機關學校長
潛航衛	海軍潜水學校長
工務衛	横須賀海軍工作學校長
衛生衛	戸塚海軍衛生學校長 (賀茂海軍衛生學校長ト協議ス)
經理衛、衣糧衛	海軍經理學校長

第二十一條中「銓衡シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ」ヲ「銓衡ノ上之ニ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

鎮守府司令長官ハ前項ノ規定ニ依リ特技章ヲ付與シタルトキハ特修別(更ニ專修別ニ分ツ)、高等科又ハ普通科特技章別ニ區分シ特技章付與者員數ヲ速ニ海軍大臣ニ報告スルモノトス

附則

本令ハ昭和二十年七月十五日ヨリ之ヲ適用ス但シ第二十一條ノ改正規定ハ昭和二十年六月銓衡試驗實施ノモノヨリ之ヲ適用ス

(昭和十九年九月二十九日本欄參照)

官房經第四二〇號

當分ノ開支用官支拂豫算中目、節ノ金額ノ彼此増減ヲ要スルトキハ海軍會計規程第十七條又ハ海軍作業會計規程第六條ノ規定ニ拘ラズ大正十二年勅令第三百五號所定ノ費途ニ該當スルモノ外之ヲ專行スルコトヲ得前項ノ場合支出官ハ一般會計及臨時軍事費特別會計ニ在リテハ毎年度七月、十月及一月竝ニ翌年度四月中ニ各前三分ヲ、海軍工廠資金會計及海軍作業會計ニ在

リテハ毎年度末當該年度分ヲ總括シ支拂豫算増減更定報告書又ハ支拂豫算流用報告書ニ依リ海軍省經理局長ニ報告スベシ  
昭和二十年七月十九日  
海軍大臣

(參照) 海軍會計法規類集一卷四一頁、九八頁及六六四頁

官房經第四二一號

當分ノ開海軍會計規程別表第四(甲)備考第一號又ハ海軍工廠資金會計規程別表第三ノ甲備考ノ規定ニ拘ラズ收入官吏ノ任免報告ハ毎年四月及十月ノ各月十日迄ニ各前六分ヲ取纏メ報告スルコトヲ得  
昭和二十年七月十九日  
海軍大臣

(參照) 海軍會計法規類集一卷五三頁及六八四頁

○ 通 牒

軍務一機密第六三〇號

昭和二十年七月十九日

海軍省軍務局長

海軍總隊參謀長  
各鎮守府參謀長  
各警備府參謀長  
海軍航空本部參謀長  
海軍艦隊本部參謀長  
海軍總務部參謀長  
海軍監部參謀長  
海軍救難本部參謀長

殿

海軍編成擔任ニ關ル國民義勇戰團隊ノ編成及  
所屬ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ國民義勇戰團隊統率令及昭和二十年五月五日軍務二機密第四號「義勇戰團隊及國民義勇隊編制、指導要綱ノ件」ニ依ルノ他左記ニ依リ編成ノコトニ取計相成度

記

一 一般ノ國民義勇戰團隊員タルベキモノ

海軍作戰擔任區域内ニ參國民義勇戰團隊ヲ編成シ各鎮守府警備府ニ屬セシム

二 海軍各部ノ職員

昭和二十年官房第三一三號「海軍各廳ニ於ケル國民義勇隊編成ノ件」ニ依ル國民義勇隊ヲ其ノ儘義勇戰團隊ニ轉移ス

三 國家船舶ノ乘員（豫備船員及之ヲ統理ノ爲必要トスル所在海運局及船舶運營會ノ職員ヲ含ム）

船舶義勇隊ヲ編成シ海運總監部ニ屬セシム（中央ニテ一括編成中）

四 特殊漁船（哨戒ニ從事スル傍ラ漁業海獸獵獲ヲ營ム漁船及海軍ノ保護ノ下ニ出漁セシムル北洋漁業船等ヲ謂フ）ノ乘員及要員

各鎮守府警備府ニ於テ特殊漁船義勇戰團隊ヲ編成シ所管ノ鎮守府警備府ニ屬セシム

五 救難關係要員

船舶救難義勇戰團隊ヲ編成シ所在地ノ警備府掌ル鎮守府警備

府ニ屬セシメ業務ニ關シテハ船舶救難本部長ノ指揮ヲ受ク

六 大日本航空會社第二運營局（海軍役備航空輸送部）職員

航空義勇戰團隊ヲ編成シ海軍航空本部長ニ屬セシム

七 前各號ノ國民義勇戰團隊ノ轉移ノ時期ハ原則トシテ中央ノ指示ニ依ル

追テ記第三號乃至第六號ノ國民義勇戰團隊ニ付テハ七月下旬頃轉移ヲ下令セラルル豫定ニ付各戰團隊所屬ノ長官ニ於テ可

然準備相成度

經給機密第一號ノ二六  
昭和二十年七月十七日

經給機密第一號ノ二六

昭和二十年七月十七日

海軍省 經理局

關係各廳御中

海軍機密會計法規類集及同加除紙ノ取扱ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十八年經給第一號ノ一六中左ノ通改正致候

第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 各海軍經理部ニ於テハ帳簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明ニスルコト

（參照）海軍機密會計法規類集三〇八頁

經給機密第三號ノ五五

昭和二十年七月十九日

經給機密第三號ノ五五

昭和二十年七月十九日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿  
 日本銀行代理店設置ノ件通知  
 國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店左記ノ通設置セラレ之方事務  
 ヲ取扱フコトト相成候

千葉縣市原郡「鶴舞町」

經豫第三號ノ一〇〇  
 昭和二十年七月十九日

海軍省 經理局長

各支出官殿

出納官吏ノ任免報告ニ關スル件通牒

當分ノ間昭和十四年五月經調第四七號照會ニ拘ラズ首題報告ハ  
 毎年四月及十月ノ各月十日迄ニ各前六月間ニ於ケル分ヲ取經メ  
 報告シ差支無之候

(參照) 海軍會計法規類集一卷六〇〇頁

○ 雜 款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記	事
九州海軍航空隊 岩川派遣隊	鹿兒島縣嶺南郡 松山村	五月二八日	旅行順路 郵志布志線大隅松山驛下車 郵便物送先 鹿兒島縣嶺南郡松山局氣 付イ一ニ七 イ二ニ七	

美保派遣隊	鳥取縣西伯郡大 篠津村	六月三日	小松海軍航空隊及美保海軍 航空隊ハ六月三十日附解隊 郵便物送先 鳥取縣西伯郡大篠津村 石川縣仁沼郡篠津原
同 小松派遣隊	石川縣仁沼郡篠 原村		追テ關係ハ特派員ニ急 要スルハ特派員ニ急 指遣スルハ特派員ニ急 執行ニ對シハ特派員ニ急 派遣ニ對シハ特派員ニ急 特ニ必要ナルハ特派員ニ急 寫一ニ送付ノコト
内海海軍航空隊 岩國分遣隊	山口縣岩國市岩 國航空基地内	七月三日	旅行順路 山陽線岩國驛下車徒歩約 郵物送先 山口縣岩國市岩國航空基 地内
佐世保潜水艦基 地隊海分遣隊 (大智部隊)	鹿兒島縣肝屬郡 垂水町海濱	七月五日	旅行順路 鹿兒島縣下車 郵便物送先 鹿兒島市 棧橋渡垂水行定期船アリ

○正誤  
 六月二十五日附秘海軍公報第五〇五二號通牒欄經契機密第一號  
 別表第二日用品類中「洗濯紐」ヲ削除、七月一日附同第五〇五  
 八號通牒欄經契機密第三號海軍省經理局統制契約品中塵紙ノ行  
 摘要欄「一東二十枚」ハ「一東二百枚」ノ誤

○本日海軍公報發行セス

秘

海軍公報 第五〇七五號

昭和二十年七月二十一日(土)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第六一六號

20.7.21  
神

右役務ヲ解カル

右特殊警備艦ト定ム

昭和二十年七月十日

海軍大臣

内令第六一七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項電纜敷設艇ノ欄「初島(横)」ヲ削ル

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百號(佐)」  
「第三百五號(佐)」  
「第三百三十三號(佐)」及「第三百四十四號(佐)」

ヲ、電纜敷設艇ノ欄「大立(佐)」ヲ削ル

紀伊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十七號(阪)」ヲ削ル

第二遣支艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十號(高)」ヲ削ル

第二十三特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第一百號(佐)」

ヲ削ル

第二十五根據地隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第一百五號(佐)」ヲ削ル

ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第六一八號

第一百一號驅潛特務艇

第二百號驅潛特務艇

第二百五號驅潛特務艇

第二百三十三號驅潛特務艇

第二百四十四號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第二百十號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ高雄警備府ト定メタル處之ヲ解ク

秘海軍公報 第五〇七五號 昭和二十年七月二十一日

七九一

2142

<p>右本籍ヲ大阪警備府ト定メタル處之ヲ解ク 第九十七號驅潛特務艇 第百五號掃海特務艇</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 電纜敷設艇 初 島</p>	<p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 同 大 立</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>内令第六一九號(軍極秘海軍公報第二六五號(乙配付)ニ掲載) 特設驅潛隊編制中左ノ通改定セラル 内令第六二〇號 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>第百十二驅潛隊ノ項中「第八日東丸」ヲ削ル (内令提要卷三、一四九頁参照)</p>	<p>内令第六二二號 特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>
<p>第四十九掃海隊ノ項中「第十七日之田丸」ヲ削ル (内令提要卷三、一五〇頁参照)</p>	<p>内令第六二二號 特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>第一監視艇隊ノ項中「第一大神丸」、「第十二明神丸」及「第十二事代丸」ヲ削ル</p>	<p>第二監視艇隊ノ項中「第三五十鈴丸」ヲ削ル 第三監視艇隊ノ項中「第六朝洋丸」及「網地丸」ヲ削ル 第四監視艇隊ノ項中「白鳥丸」ヲ削ル (内令提要卷一、一五一頁参照)</p>	<p>内令第六二三號 昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月十日 海 軍 大 臣</p>	<p>横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「泉南丸(横)」ヲ削ル 伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「五號富嶽丸(横)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「第三勢丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「有明丸(横)」ヲ削ル</p>	<p>女川防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄「東郷丸(横)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第二幸昌丸(横)」ヲ削ル</p>



佐伯防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「二水丸(吳)」及「麻豆丸(吳)」ヲ削ル	同	五號宮嶽丸
下關防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十一日東丸(吳)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「女島丸(吳)」ヲ削ル	同	第八日東丸
佐世保防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「第二新東丸(佐)」ヲ、特設驅潛艇ノ欄「大安丸(佐)」及「竹東丸(佐)」及「第二十七郵船丸(佐)、第三十一郵船丸(佐)」ヲ、特設監視艇ノ欄「第十三長運丸(佐)、第二號日出丸(佐)」ヲ削ル	同	第十一日東丸
大湊防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「寶成丸(横)」ヲ削ル	同	二水丸
馬公方面特別根據地隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「若宮丸(佐)」ヲ削ル	同	麻豆丸
第二十三特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第一昭南丸(舞)」ヲ削ル	同	富士丸
第二十五根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「海龍丸(吳)」ヲ削ル	同	海龍丸
第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「開南丸(吳)」及「新安丸(舞)」ヲ削ル	同	開南丸
第二特攻戰隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「富士丸(吳)」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)	同	大安丸
内令第六二四號	汽船	竹東丸
	同	第二十七郵船丸
	同	第三十一郵船丸
右特設捕獲網艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	第一昭南丸
	同	新安丸
	同	第三鸚丸
	同	東郷丸
右特設掃海艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	女島丸
右特設驅潛艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
右特設驅潛艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
右特設掃海艇トシ橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
右特設掃海艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	橫須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

秘海軍公報 第五〇七五號 昭和二十年七月二十一日

七九三

<p>同 第十七日之出丸 右特設掃海艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 漁船 寶成丸 同 第六朝洋丸 同 第一大神丸 同 第十二明神丸 同 第三五十鈴丸 同 網地丸 同 第二幸昌丸 同 有明丸 同 白鳥丸 同 第十二事代丸</p>	<p>右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 同 第十三長運丸 同 日出丸 右特設監視艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 汽船 華山丸 右特設運送艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 昭和二十年七月十日</p>	<p>海軍大臣</p>	<p>内令第六二五號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 第二百四號海防艦</p>
<p>横須賀鎮守府在籍 第二百四號海防艦 右警備海防艦ト定メラル 昭和二十年七月十一日</p>	<p>海軍大臣</p>	<p>官房人機密第四六一號 本年七月十日現在第四警備隊職員タル者ハ特ニ發令セララルモ ノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第六警備隊ノ相當職員ニ補命セラ レタル義ト心得ベシ 昭和二十年七月十日</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>2145</p>	<p>海軍大臣</p>	<p>官房人機密第六七八號 當分ノ間横須賀海軍工作學校長ハ官房教機密第三〇九號別紙第 五號(口)項ニ依ル生産協力實施上必要ト認ムル場合ニ於テハ各方 面派遣人員ノ指揮官タルベキ大中佐ヲシテ所轄長ニ準ジ其ノ指 揮下ニ在ル者ノ身上其ノ他一般事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得 昭和二十年七月十五日</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>官房人機密第四六二號</p>	<p>本年七月十五日現在左記上欄各校ノ職員タル者ハ特ニ發令セラ ルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セ ラレタル義ト心得ベシ</p>	<p>海軍大臣</p>	<p>官房人機密第四六二號</p>

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

記

海軍對港學校	海軍水雷學校
沼津海軍工作學校	横須賀海軍工作學校

官房人機密第四六三號  
 本年七月十五日現在第百十二驅潛隊職員タル者ハ特ニ發令セラ  
 ルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ伊勢防備隊附ニ補命セラレ  
 タル義ト心得ベシ  
 昭和二十年七月十五日  
 海軍大臣

○通牒

軍務一機密第六三四號

昭和二十年七月二十日

海軍省軍務局長  
海軍省醫務局長

關係各廳長殿

地下壕居住(作業)ノ保健衛生指導ニ關スル  
 件申進

首題ノ件ニ關シテハ各部共銳意研究調査ノ上適切ナル指導實施  
 ノコトト認メラルルモ之ヲ強化徹底ハ刻下ノ緊要事ト認メラレ  
 候條別途送付ノ醫務機密第一三七號指導要領ヲ活用二段ト之ヲ

秘海軍公報 第五〇七五號 昭和二十年七月二十一日

徹底ヲ期セラレ度

○雜談

○廳舎、部隊移轉

廳舎、部隊名	移轉先	移轉月日	記
第三海軍衣糧廠	京城府鑛路區貫 鐵町二九六	五月七日	電話 京城本局 八八八—〇九〇— 〇〇〇—三三〇— 一一〇〇— 交換
小樽港警備隊	小樽市界町十一 番地	七月七日	電話 四九三—三番、四九五八番
第十三航空戰隊司令部	奈良縣山邊郡朝 和村大和海軍航 空隊内	七月三日	郵便物發送先 奈良縣磯城郡柳本局氣付 ウノ六三八
第十二航空戰隊司令部	第一千歲基地内	七月二日	同基地宛發送付ノコト
吳海軍設備隊	廣島縣吳市廣町	六月七日	旅行順路 吳線廣野下車西へ一丁 郵便物發送先 廣島郵便局氣付 ウ七七番
吳防備隊	廣島縣加茂郡川 尻	七月二日	郵便物發送先 川尻郵便局氣付 吳防備隊
第五百二十二號 警隊	鹿兒島縣肝那郡 中良町中山	六月一日	旅行順路 古江線鹿屋驛下車徒歩約 四十分 郵便物發送先 鹿屋分局氣付 海軍五二二

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記
------	------	--------	---

七九五





海軍公報 第五〇七六號

昭和二十年七月二十二日(日) 海軍大臣官房

命令 達

官房経機密第四二三號  
海軍戦時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十日

海軍大臣

第六條中「貸與ニ代ヘ」ノ下ニ「第三表ニ依リ」ヲ加フ

第七條 海軍給與令第六十九條ニ規定スル扶助金(以下單ニ扶助金ト稱ス)ハ同令施行細則第七十五條乃至第八十條ノ規定ニ拘ラズ本人ニ之ヲ支給ス

第七條ノ二 前條ノ扶助金ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 家族ヲ有スル志願兵初メテ入團若ハ入隊シタルトキ、家族ヲ有スル徵兵志願兵籍ニ入りタルトキ又ハ單身ノ志願兵籍ニ在ル者(應召中ノ者ヲ除ク)家族ヲ有スルニ至リタルトキハ其ノ日ノ屬スル月ヨリ

二 單身ト爲リタルトキ、特務士官若ハ准士官ニ任官、進級シタルトキ、豫備役、免官、免役ト爲リ若ハ歸休ヲ命ゼラレタルトキ、六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ死亡シタルトキハ其ノ日ノ屬スル月分迄

前項第一號ノ家族トハ本人ト同一戸籍内ニ在ル親族ヲ謂フ  
第七條ノ三 扶助金ハ四月ヨリ翌年三月迄ノ分ヲ三月一日本人

ノ所屬スル艦船部隊其ノ他各部(三月一日所屬ヲ轉ジタル者ニ在リテハ舊勤務廳)ニ於テ支給ス但シ前條第二號ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第七條ノ四 海軍給與令施行細則第八十一條乃至八十三條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第十二條第四項中「又ハ殘務整理部ノ所屬鎮守府所在地ノ海軍軍需部長」ヲ削ル

第六表備考第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 海軍主計料及技術科武官任用及服役特例第一條乃至第二條ノ規定ニ依リ士官、特務士官又ハ准士官ニ任用セラレ同特例第三條ノ二ノ規定ニ依リ豫備役ニ服センメラレタル者ノ初任手當ハ二百圓トス

前項ノ規定ニ該當スル者初メテ召集セラレ勤務ニ服スルトキハ更ニ初任手當トシテ二百圓ヲ支給ス

第九表ヲ別表ノ如ク改ム

附則

第六表ノ改正規定ハ昭和十九年三月一日以後ノ給與ニ付第七條乃至第七條ノ三ノ改正規定ハ昭和二十年四月以降支給スベキ扶助金ニ付之ヲ適用ス但シ本令適用ノ際既ニ海軍給與令施行細則第八十條ノ規定ニ依リ支給済ノ扶助金ニ在リテハ仍從前ノ規定

秘海軍公報 第五〇七六號 昭和二十年七月二十二日

七九七

<p>二 依ル (別表添) (参照) 海軍機密會計法規類集一一一頁</p>		<p>○ 通 牒 軍需糧第三九號 昭和二十年七月二十一日 海軍省軍需局長</p>		<p>關係各廳長殿 洗米機(器) 使用禁止ニ關スル件照會 食糧事情極度ニ逼迫セル現情勢下ニ於テハ糧食品菜養價ノ確保ニ努ムルハ特ニ緊要ナル處從來使用セラレタル洗米機(器)ニ依ル洩洗ハ米穀ノ榮養成分ノ相當量ヲ水中ニ流失スルヲ以テ之ガ使用ヲ嚴禁シ無洩洗炊飯ニ依ルコトニ取計相成度</p>		<p>○ 雜 款 ○ 事務開始 事務所名 設置場所 事務開始月日 記 事</p>													
<p>第四陸上輸送隊 土浦市大房(第一號寄廠内) 六月一日 旅行順路 常磐線荒川沖下車徒歩約二十分 郵便物送先 茨城縣取手郡荒川沖局氣 付 第四陸上輸送隊</p>		<p>○ 本日軍機秘海軍公報第一六六號(乙配付) 發行セリ 配付先 各司令部、各海軍軍需部(特設ヲ含ム)、各海軍經理部(特設ヲ含ム)、各突擊隊、第一、第二各海軍衣糧廠、海軍經理學校(品川本校)、海軍水雷學校、海軍潜水學校、同柳井分校、同七尾分校、大楠海軍機關學校、同大竹分校</p>		<p>○ 本日海軍公報發行セズ</p>		<p>樺太 大泊 在 勤 海 軍 武 官 府 大 泊 分 室</p>		<p>豐原地方在勤海軍武官府 八丁日二十二番 地(舊大日本總 人會本部)</p>		<p>豐原地方在勤海軍武官府 八丁日二十二番 地(舊大日本總 人會本部)</p>		<p>大阪在勤海軍武官府 濱通二丁目八番 地(元東洋紡績 株式會社本社)</p>		<p>東北地方海軍部 仙台市表小路一 〇番地</p>		<p>樺太方面特別根 據地隊津派遺 隊 六月二〇日 一〇番地 清津府日賀田町</p>		<p>郵便物送先 成鏡北道清津府日賀田町 一〇番地 津派遺隊 隊 津派遺隊</p>	

(官房経機密第四二三號別表)

(昭和二十年七月二十二日秘海軍公報)

第九表 被服物品		品名		數量		
備考 一 本表ノ範圍内ニ於テ給與スル被服物品ノ代價ノ合計額ハ第八表ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ 二 本表ノ被服物品ヲ受クル者ニ對シテ所轄長又ハ海軍經理部長必要アリト認メタルトキハ第八表ノ金額ヨリ本表ノ被服物品ノ代價ヲ控除シタル金額ノ範圍内ニ於テ臨時手當ヲ併給スルコトヲ得	靴	一	組	靴	一	組
	飾	一	個	肩章	一	組
	雨	一	個	褐青色シャツ	二	個
	行	一	個	夏袴	二	個
	脚	一	組	夏襦袢	二	個
	外	一	個	袴	二	個
	劔	一	個	襦袢	二	個
	軍	一	個	手袋	一	組
	略	一	個	靴	四	組
	略	二	組	編上靴	一	組



20.723

# 海軍公報

第五〇七七號

昭和二十年七月二十三日(月)

海軍大臣官房

## ○令 達

内令第六二六號

海軍工廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十二日

海軍大臣

第十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第一火工部ハ火工兵器ノ造修、第二火工部ハ化學兵器ノ造修ニ關スルコトヲ掌ル

(内令提要卷一、三〇頁参照)

内令第六二七號

波號第二百十九潛水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和二十年七月十二日

海軍大臣

内令第六二八號

波號第一百十一潛水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和二十年七月十三日

海軍大臣

内令第六二九號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中東京海軍航空隊ノ項ヲ削ル

吳鎮守府ノ部中浦戸海軍航空隊、松山海軍航空隊及宇和島海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第六三〇號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

「東京海軍航空隊」及「浦戸海軍航空隊」  
「松山海軍航空隊」ヲ削ル  
宇和島海軍航空隊

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ二頁参照)

内令第六三一號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件中

海軍公報 第五〇七七號 昭和二十年七月二十三日

七九九

2151



左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

百里原海軍航空隊等ノ部中「東京海軍航空隊、」ヲ削ル  
土浦海軍航空隊等ノ部中「松山海軍航空隊、」ヲ、「浦戸海軍航空隊、」及「宇和島海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四四頁参照)

内令第六三二號

海軍燃料廠處務規定中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

第九條及第十三條中「第二探炭部」ノ下ニ、「第三探炭部」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ三〇頁参照)

内令第六三三號

海軍燃料廠ヲ置ク地及同廠ニ置ク各部、課等ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

福岡縣糟屋郡第四海軍燃料廠ノ項中「第二探炭部、」ノ下ニ「第三探炭部、」ヲ加フ

備考中「羽ノ浦町、」ノ下ニ「同廠第三探炭部ハ之ヲ大阪府泉北郡池田村ニ、」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ三一頁参照)

内令第六三四號

昭和二十年内令第三四七號ノ三特設海軍燃料廠補給部ノ出張所ヲ置ク件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

大阪府大阪市 特設海軍燃料廠補給部大阪出張所

(昭和二十年五月十五日秘海軍公報参照)

内令第六三五號

海軍航空軍備資料調査班規程左ノ通定ム

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

海軍航空軍備資料調査班規程

第一條 海軍航空本部總務部ニ海軍航空軍備資料調査班ヲ置ク  
第二條 海軍航空軍備資料調査班ハ海軍ノ航空軍備ニ必要ナル航空機其ノ他ノ兵器及人員等ノ實情ヲ調査シ關係海軍各部ニ之ヲ提示シ以テ航空戰備ノ整頓及作戰ノ實施ヲ容易ナラシム  
第三條 海軍航空軍備資料調査班ニ班長、班員及班附ヲ置ク其

ノ組織別表ノ如シ  
 第四條 班長ハ海軍航空本部總務部長ノ命ヲ承ケ班務ヲ總理ス  
 第五條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ調査ニ從事ス  
 前項ノ外海軍航空本部部員(總務部)タル班員一人ハ調査主任トシテ事務ノ統合ニ當ルモノトス  
 第六條 班附ハ上官ノ命ヲ承ケ調査事務ニ從事ス  
 (別表添)

官房需機密第二五五號

大東亞戰爭中海軍軍需部又ハ艦船部隊ニ於テ規定ノ艦營需品ヲ購買シ難キトキハ艦營需品經理規程第二條ノ規定ニ拘ラズ適宜ノ品種ニ依ルコトヲ得

昭和二十年七月二十二日

海軍大臣

○通牒

經物第二四號

昭和二十年七月二十一日

海軍省經理局長  
 海軍艦政本部長

關係各廳長殿

陸上貯藏豫備品ニ關スル件通牒中改正ノ件通牒  
 昭和十三年經物第二一六號通牒首題ノ件左記一中「此ノ場合ニハ豫メ上申認許ヲ要ス」ヲ「但シ續管、復水器管及補機共通豫

備品ニ付テハ豫メ艦政本部長ニ協議ヲ要ス」ニ改ム  
 (參照) 會計法規集第四卷六九頁

○雜 談

○練習生教育中止ニ伴フ銓衡試驗ニ依ル特技章付與ノ件  
 本校第四十六期高等科經理術及第十一期高等科衣糧術練習生(四月二日入校五月一日官房教機密)タリシモノハ銓衡試驗ニ依リ(第三〇九號教育中止ニ依リ退校)タリシモノハ銓衡試驗ニ依リ夫々當該高等科特技章ヲ付與セラレ候條左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 付與年月日 昭和二十年五月一日
- 二 履歴表記註要領

三、五一 高等科經理術(銓衡)試驗(二十年官房人機密)經校  
 衣糧術(第四一號認許)經校

(海軍經理學校)

○廳舍、部隊移轉

廳舍、部隊名	移 轉 先	移轉月日	記 事
第二十一陸上輸送隊	福岡市東區箱町 明光寺内	六月〇日	旅行順路九州本線博多驛又ハ吉塚驛下車徒歩約十五分 郵便物送先局氣付 海軍岡田部隊
第三十一陸上輸送隊	舞鶴市敷島國民學校内	六月二五日	郵便物送先局氣付 海軍仁部部隊

秘海軍公報 第五〇七七號 昭和二十年七月二十三日

八〇一

海上護衛總司令部 部附第五〇七船 船防空隊(假稱)	富山縣高岡市伏木町中通一番地 説教場	七月三日	旅行順路 北陸線高岡驛來見線乘換 伏木驛下車 郵便物送先 富山縣高岡市伏木町伏木 港警備隊氣付ウ四八貳
神戸在勤海軍武 官府	神戸市生田區明 石町一九	同	旅行順路 省線元町驛下車南三丁徒 歩約五分
第五百七十二設 營隊	青森縣下北郡	七月七日	郵便物送先 青森縣下北郡大畑局氣付 ウ六貳八
德島海軍航空隊 本部	德島縣板野郡淺 美町木津	七月十日	旅行順路 宇高連絡線經由高德線池 谷乘換、撫養線教會前下 車徒歩約五分 郵便物送先 德島縣板野郡撫養町木津
第五十三航空隊 司令部	奈良縣山邊郡丹 波市町海軍第二 本部	七月三日	旅行順路 櫻井線(省線)丹波市驛 下車徒歩一、三紘 郵便物送先 奈良縣山邊郡丹波市局氣 付ウ六三九
横須賀海軍工作 學校	横須賀海軍通信 學校	七月六日	

○轉勤者赴任先

當廠へノ轉勤者ハ東京急行電鐵(湘南線)金澤八景驛下車(徒歩約五分)ノコトニ取計ハレ度

(第二海軍技術廠)

當隊ハ六月二十日附舊關東海軍航空隊ノ改稱セラレタルモノナリ  
轉勤者ハ靜岡縣志太郡藤枝航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

追テ旅費支給上ノ起終驛ハ從來通東海道線藤枝驛乘換藤相電  
鐵上新田驛下車トシ前金拂ノコトニ取計ハレ度  
(東海海軍航空隊)

○本日軍報秘海軍公報第一六七號(乙配付)發行セリ  
配付先  
關係各司令部、海軍兵學校、海軍經理學校

○本日海軍公報發行セズ

(内令第六三五號別表)

(昭和二十年七月二十三日秘海軍公報)

考 備	計			班 附		班 員 佐	班 長 大 中 佐
	士  官			主計科中少尉 主計科大尉		官	
	三十一人			四	三	二十三	一
一 班長ハ海軍航空本部總務部第一課長ヲ以テ之ニ充ツ 二 班員ハ海軍航空本部部員十四人(内一人ハ調査主任ニ充ツ)、海軍省軍務局局員二人、人事局局員四人、軍需局局員一人、軍令部部員一人、海軍艦政本部總務部部員一人ヲ以テ之ニ充ツ 三 班附ハ海軍航空本部出仕又ハ附タル者ヲ以テ之ニ充ツ	兵	下 士 官	准 士 官	兵	主 計 兵 曹	各 科 兵 曹	主 計 兵 曹 長
	三人	五人	一人	三	二	三	一

2155